

磐田市文化会館建設検討委員会（第2回）会議録【要約版】

【日時・場所】

平成27年10月19日（月）13:30
磐田市役所本館4階 大会議室

【出席者】

建設検討委員会委員：青島美子、浅羽 浩、小野泰弘、佐藤典子、鈴木正善、鳥居 勤、
永井聡子、袴田茂人、平野邦孝、村上勇夫

事務局：酒井企画部長、清水市民部長、井熊企画部理事

秘書政策課 袴田課長

文化振興課 落合課長、小澤、新貝

文化・体育施設等整備室 金子室長

環境デザイン研究所：斎藤、小高

1. 開会

2. 委員自己紹介（前回欠席委員のみ）

3. 議事

①新しい磐田市文化会館の基本理念について・・・事務局説明

（会長）

事務局から文化施設に係る法令、他市等の基本構想についての概要説明がありました。新しい磐田市文化会館の基本理念について意見交換をしてみたいと思います。

次第に、文化会館の役割、方向性についてという言葉があります。こんな活動ができる施設、具体的な活動とか事業をイメージしていただくと、結果的に理念が出てくると思います。みなさんが日頃、取り組んでいる活動をベースに、こういうことができる会館だといいいね、というようなことで遠慮なさらず発言をお願いしたいと思います。

（委員）

今の説明でキーワードとして心にとまった言葉というと、磐田市の文化芸術振興計画の中に「豊かな心を育み」というフレーズがあり、そういう言葉はいいと思う。イメージするに文化に触れて、心が豊かになり、笑顔があふれる、そういう言葉が盛り込めるといいと思う。

（委員）

文化というと敷居が高いようなイメージがありますが、敷居を高くするのではなく、お年寄りから子どもたちまで気軽に立ち寄れる施設がいいと思う。時には、若い人が集りダンスとか、それから芸能人を呼べるような施設。絵とか音楽とかに触れるのもいいと思う。

（委員）

文化芸術振興計画が磐田市にあるので、その理念は外すべきではないだろうと思う。

市では感動と育成を基軸にしているということで、特に感動というのは大事だと思う。振興計画の取り組みに4点ほど書いてあるが、2点目に「本物を鑑賞・体験する機会を充実する」と記載されており、新しい市民会館の役割は、本物を鑑賞することが大事

だと思ふ。本物を鑑賞することは、本物の方に来ていただけるような施設が必要だろうと感じる。

(委員)

お年寄りから子どもたちまで気軽に立ち寄れる施設と本物の方に来ていただけるような施設の両方を兼ね備えた施設をつくるのは至難の業だと考える。やはり、17万都市では2つ建てる訳にはいかない。1つの中にそういう要素を入れることを十分承知してこの委員会は立ち上がっていると思う。その2つをどのようにしたら良いかと、もう一つは、本物に接することができるだけのしつらえをちゃんとすることは賛成です。

本物とは、中央でやることだけが本物ではない。今は、地域でも本物はいくらでも誕生している。地方から全国への発信をしている。私たちが生まれ育った磐田から本物が国内発信、世界発信できるような場でもあってほしい。

(委員)

感動、本物という言葉は、私も発言しようと思っていたが、合唱コンクールにしても、音楽発表会にしても様々な子どもたちが出演する。子どもたち同士も感動するし、その親たちも非常に感動される姿を見かける。非常に感動するステージができるので続けていただきたい。

本物に触れるということですが、東静岡駅前のグランシップでいろいろ公演があり、学校でバスを出して見に行くことが多々ある。本物に触れるためには莫大な費用が必要になる。新しい会館ができれば交通費もかからずに本物に触れることができる。

学校では子どもたちには、とにかく本物に触れさせたいということを常々言っており、もし本物に触れることができるのであれば、学校としては諸手を挙げて賛同したい。

(委員)

ラグビーのワールドカップが開催中で、あれもスポーツという文化だと思う。日本代表が世界の舞台でがんばり、日本に感動を巻き起こしている。感動を共有することで日本が一つになっている。感動を共有する場ということも入れたらいいかと思う。

(委員)

皆さんの基本的な考え方、理念について話しを伺っていますが、芸術文化というのは、皆さん言われるように、楽しい、心豊かになる、本物を見て感動する、ということにとどまらなくて、どうして、それで、というものが芸術や文化の中にはある。

次世代の子どもたちには本物を見て、発展させていくということが芸術文化の最大の目的ではないか考える。

(委員)

基本理念には、文化、芸術、創造、参加、発表などの言葉が出てくる。皆様の認識を確認したいと思う。「企画する」「創造する」ということがある。感動を共有する心を育む、ということは身近に本物がたまに来るということではなく、常にあるということが非常に大事だと思う。

芸術を創造する人が身近にいて創造する過程を見せてくれる、創造されたものだけを鑑賞するのではなく、日頃から触れている状況があるからこそ、人は集まり日常的にも集う場になる。集うにはどうしたらいいかという、本物の作品が会館で企画立案されて発信するというプロセスがあるので行ってみよ、見てみようとなる。日頃、演劇になじみはないが、おもしろいことをやり続けていると、他市からも注目され、評価されることで市民は、初めて自分たちの良さを知ることとなる。

鑑賞するまでの過程を子どもたちや、一般の方たちに知ってもらう工夫を、専門スタ

ップの方等と一緒にやる以外ないと思う。そうしてはじめて文化芸術がまちにある、というふうにも言われるのではないかと思う。

本物をつくる、というところは委員会の中で確認しておいた方がいいと思う。ソフトとハードがセットになり、すごい会館だな、すごいスタッフがいる、ということで芸術家に来るようになる。

(委員)

舞台もそうですが、素晴らしい人たち、演ずる人の技術です。技術が無かったら意味がないわけです。演じさせる人の哲学です。生きる哲学みたいなものがあったときに、私たちが素晴らしい芸術に接したなというふうを感じる。

(委員)

感動の種類、質というのはいろいろな種類があるかと思う。市民劇をやった時にもお客さんは満席になり感動する。自分たちの子どもや孫ががんばっている姿をみても感動する。本物を見て今まで見たこともない世界に触れて感動するというのも皆さんご存知だと思う。

(委員)

感動についての経験談になります。中学生が市民文化会館でオペラを鑑賞し、非常に感動し、どうしても、もう 1 回、観たいということで生徒、保護者みなで苦労してお金を集め劇団を呼ぶことができた。それを聞いた劇団のスタッフ、役者たちも、必死に演技をされ、その中で子どもたちもステージに上り感動的なステージとなった。

本物を見て感動することは、青少年の健全育成です。健全な心を持ち、感動的なステージを作ることができた。そういうことを文化会館でやっていけたらすごいと思う。

(会長)

先程の発言には、2 つのことがあるでしょうか。1 つは、本物に触れることの大切さ、前半何人かの委員の方から出てきたかと思いますが、単に触れる、鑑賞するだけではなく、本物を作り出す場であることが大事という話と、もう 1 つは、ソフトとハード両方が揃っているから優れた芸術活動している人が来る。という話があり、その時のソフトという意味についても一度触れていただけますか。

(委員)

私がソフトと言ったのはスタッフ体制のことです。

文化会館という舞台と客席のある空間を建て、専門家がいらないのはおかしいのではないかと思う。これから建てる施設なので、感動、本物をつくるにはどうしたらいいかという、制作の専門スタッフ、技術スタッフを揃えて作品が創造できるような場をセットしておかなければいけないのではないかと思う。

(委員)

制作の専門スタッフ、技術スタッフを抱えていると大変なお金がかかります。会館を作ると同時に、そういうことも必要だということを、どこかに置いたほうがいいのか。同時にそれを進行していくということはとても大変なことだと思う。

(委員)

制作過程のことですが、舞台美術スタッフも制作のレベルもプロの人がいないとできないことなので、大掛かりでなくても、そういうまなざしを持った人がいた方がいいという話です。

(委員)

例えば、名古屋の唐津さんのような方が一人でも事務局サイドに専任で入られると、そういうことが可能になるという理解でよいか。

(委員)

資料にあります長久手は、良く理解している職員の方がいます。可児市文化センターも劇場、芸術監督がいます。制作面を考える人がいることが重要なことだと思う。

(委員)

素晴らしい舞台のあり方、理想的なものが本当にできたらすごいと思う。磐田市の地域の特性、行政力を考えると、これは大変なことになる。確かに専門スタッフがいるということは大事で、本物志向のためには必要かと思えます。17万の磐田市が可能かどうか。理念として掲げておく必要はあるが、今はそのことを深く追究していくのではなくて、もう少し現実の磐田市の行政能力、財政能力を基礎にしたいろいろな分野の検討を理念として考えるのがいいと思う。

(委員)

私は自治会代表で参加しています。鑑賞して体験する、間違いなくいいことだと思う。

現在、市内各地域に交流センターができています。地域に密接した楽しみ方、発表の場というものは結構ある。それらを統合して象徴するような市民文化会館にしてみたらいいのではないかと思います。

先ほど、鑑賞と育成ということがありましたが、感動の中でも、中学生がこの舞台に立って感動し、それが非常に思い出になった。そういう面が非常に大切だと思う。本物を鑑賞することと同時に、多くの人が参加して、自分がそこで体験することも、ぜひこの理念の中に入れ、育成ということも重視していただきたい。新しい文化会館は一つの象徴的なものにしてもらえるといいと思う。

(委員)

交流センターで子どもたちが歌う姿に親が感動したのと、文化会館で感動するとういうのでは、多少質が違ってくると思う。みんなでやる中で感動する、これは、感動としてもステージが低いのかもしれませんが、そういう感動もやはり場の空気というのは大切かと思う。それから、一流というのは先の話にもあったように、東京だけにあるわけではなく地方にもある。地方でも東京でも、いずれにしても、一流のものに出会うことの感動、そういうことに出会える場が、今回、文化会館に求められるものだろうと思う。

いい意味で運営のことについても議論になっていますが、まずは建設検討とういうことで箱を考え、ゆくゆく運営をどうしていくかを考えていくべきかと思う。

(委員)

今は建設の話ですが、運営についても建物を作っていくということで大事である。

先ほどから感動という言葉が出ていますが、感動のあり方には、一つ線があり、感動のあり方は、受けるものの心のあり方によるということをととても感じる。

市民会館を自主事業で満席にして、拍手を皆さんにいただく感動は、極端な例で言えば、カラオケ大会みたいなものをやってもある。あの舞台に乗った感動、それを見た、身近なものの感動というのもあり、緞帳ひとつ隔てた違う世界の、私たちが追い求めているというか、心の宝物みたいにして人間国宝級の方たちが見せて下さる感動の持ち方、そういうものと、きちっと二つあるということだけは承知していただき、市民会館は両方満足させる施設を作る難しさを承知しなければならない。

(委員)

私は文化協会から参加しており、市内には、4つの舞台を備えたホールがある。文化協会の舞台部門も3会場に分かれて、フル活用するのが私たちの使命だろうと思い3会場で舞台発表している。発表場所の希望を取ると、文化会館の舞台に立ちたいという希望が多く、それは皆さんが経験されているように、文化会館の素晴らしい機能が備わっているからである。

地域づくりや、文化の施設の環境づくりには、その辺の要望、市民の人たちがみんなその舞台に立ってみたいと思うようなものを作りたい、それが一番の目標だというふう

に自分の仕事を通して感じている。

(委員)

舞台に乗るからにはルールがあり、これをクリアしないといけないということを、理解していただき、指導をする人もいないといけない。

これは誰でも同じことだと思う。緞帳を上げるためのルールというものがあり、人に見せるには、こういうルールをクリアして舞台に乗ることができるということを教え、指導する人が市民会館とともに必要だと私は思う。

(会長)

たくさん、新しい文化会館が果たすべき役割についてご意見いただきました。

今までの議論に使命に関わるようなことも含まれていたかと思いますが、今度会館を作るなら、こういう役割を果たしていくべき、みたいなことで、何かご意見があれば頂戴したいです。

(委員)

舞台のことについて、皆さんからご意見が出ましたが、文化会館を作るにあたり、展示室とか、違った文化と言うことも話題になったと思う。その点も合わせてどう考えるか少し議論をしていただければと思う。

(委員)

現在の市民文化会館は、平成20年度から磐田市文化芸術振興計画に従って進めてきている訳ですが、老朽化、客席が狭いとかは別に、何か一般の市民から事務局等へ寄せられている課題等があれば教えていただきたい。

(会長)

事務局、いかがでしょうか。ご利用いただいている団体、市民の方からの要望のようなものがあればお願いします。

(事務局)

文化ホールに限ったアンケート結果において、磐田市民文化会館の改善点としてあがっているのは、①駐車場が少ない(約35%)、②施設や設備が古い(約28%)③高齢者、障害者などに対するユニバーサルデザインなどの配慮が足りない(約12%)④現状で満足している(約10%)。あとは、交通の便が悪い等といったものが並んでいます。

(委員)

学校で利用の場合は、大勢を集客することに心配はないと思いますが、吹奏楽演奏では、1500席は座席が多すぎるというような話はないか。ピアノ演奏では、もう少し区切られて400~800席くらいで使えるといいというような事を聞く。

(委員)

年1回、6月にあじさいコンサートを開催しているのですが、集客は800～900人くらいで、大きいといえば大きいのですが、1500満席を目指しており、小さくてもいいかと言われたら・・・。

(委員)

キャパの話題ではなく、今の状態で、いわゆる集客ということを考えると1200～1500席は必要である。磐田市のキャパとしては、現在の状態で、1500席を800～1000席で、うまく区切れるようなホールの座席のあり方は考えられるか。

(委員)

議論が別かもしれませんが、コンサート、芸能人、アーティストを呼ぶにあたっては、やはり1500席というのが必要だと思う。現在の規模がないと、誰も来なくなってしまう。そういうホールがなくては困るという意見です。

(委員)

もっと小さく、磐田市内でものづくりをしている方たちが、1500のあの座席のホールしかなく、あそこで何かをやると、あまりにも観客動員に精力を使いすぎて、もう少し何とかならないか、あれが区切れる状態ならば、2層になっていれば、上がクローズできるのに、ともよく聞く。今度新しく作られるホールは、そういうことも考えていただけるといいのではないかと、という他の団体から意見が出ている。

(会長)

施設の規模等につきましては、また、あらためて議論する時間もございますので、ここで詰めていけたらと思います。

副会長から発言がありましたことにつきましてはどうですか。

(委員)

文化協会では、美術館の設置等をお願いしてきた経緯もあるが、財政的に厳しいということで、今度市民文化会館が動く中で、どこかに展示施設を持つホールを作っていたきたいと考えている。もっと大きく考えれば、磐田市が文化芸術ゾーンをつくり市民が時間ができたり、心の余裕ができたときに、いつでもそのゾーンに行くと、いろいろな芸術文化が楽しめるというようなものを私は目指すべきであり、何か催しがあるから行くだけのところではなく、常時そちらに足が向くようなものを作っていくのが、先を見据えた考え方ではないか。そういう方向で検討していくことも大切だと思う。

(会長)

文化会館の中か、あるいはそれに隣接しているような場所かは別にして、何か一緒に楽しめるようなところがあるといいのではないかと話ですね。

(委員)

私も同じように、今は振興センターがあり、そちらで展示ができますが、機能の話になりますが、舞台と展示施設がそれなりの規模もあり、事務所も備わった2つの機能が重なる施設がいいと思う。

(会長)

理念については、ここで一区切りにしまして、皆さんからいただいた多くのご意見を事務局で整理していただき、次回に提示いただくことにしたいと思います。

それでは2つ目の議題、文化会館をこれからどこかに建設しないといけないのですが、こういう条件の場所がいいんだろうかということについて、自由に色々な角度、観点ということでご提言いただければと思います。

(委員)

市民の要望に、駐車場問題がある。駐車場のことを考えざるを得ないと思う。

また、公共交通機関、特に駅から近い方がいいのではないかとの意見が結構根強くあるが、実際に車で来る方が圧倒的といってもいいかもしれません。そういう意味では、駅に近くて駐車場が多いところがベストですが、なかなかそうはいかないとなれば、駐車場の広さをとれるところが第一条件かと思う。

前のあり方検討委員会で、副会長はご存知だと思いますが、多目的施設にするのか、専門の施設を作っていくのかという議論が実はそのままである。議論として、ゾーンということで進めるならばゾーンの中でお互い、既存施設で補完するとか、別の施設を作ってもゾーンですから、使い合えるということで施設の有効利用もできるかもしれません。ゾーンであれば、ホールが閉まっても人の行き来が出来るような考え方は結構あるかと思う。

(委員)

候補地を選ぶにあたり、前回、市長が財政的に後年度に負担をかけないと述べた。

ここで自由に議論して、ここの候補地に、本当に市は財政的に対応できるかどうか。駅に近ければ地価は高いだろうし、かなりの面積を要する。建物ばかりでなく、用地取得に対してもかなりの財政負担というものが考えられる。そこを、どうこの委員会は対応していくべきかを議論していただければと思う。

(委員)

新駅の近くは地価が非常に高く、無理だという話も出ていましたが、候補地が、あの辺りなら何とかなるのではないかということ、市で把握しているかどうかを伺いたい。候補地がいくつかあるなら、それを委員会で検討した方が決定は早いのではないか。

(会長)

只今の意見を聞いて、事務局いかがですか。

(事務局)

市としましては、まず委員さんのご意見を聞かせて頂きながら、候補地の選定に入りたいというのが第一です。これからいろいろな条件が出てくると思う。その条件がすべて合う土地はなかなかないと思う。駅に近くて、面積が広くて、価格が安くて、開発に時間を要しない場所はないと思う。これから、磐田市の顔となる施設には間違いないので、そういう観点の中で、こういった場所が望ましいのではないかと示していただきながら、市の考え方を示せということであれば、次回または、その次辺りに何らかのたたきは出していかがるを得ないのかと思います。まずは、みなさんの意見を聞き、市もしっかりと考えていきたい。

(委員)

1年かけてこれは建てるという方向であれば、前のあり方検討委員会の中で候補地の話は出なかったのか。

(委員)

まだ、その議論を行う場ではないということできさない様にしていた。

(委員)

前の検討委員会で議論され、ある程度市で候補地がいくつか既に頭の中に浮かんでいようなら、それを出していただいて皆さんで検討したほうが早いと感じた。

(委員)

委員から市へ候補地案を出せというのは乱暴な議論です。どこかの段階で市の方のたたき台が出て、我々が全部地代を承知しているわけではないので、勝手にあそこがいい、ここがいいという話は我々からできません。市の方で次回なり、たたき台を出していただき、その上でどうでしょうか、という話をしないと無理だと思う。

(事務局)

今、皆さんから意見をいただきましたので、十分そこは踏まえ、次回以降、市としてもたたき台として建設候補地案みたいな形で提示できる準備は進めていきたいと思う。

(委員)

旧磐田市立病院が、国府台から大藤に移転し、急病人が出た時に大丈夫かという意見が少なからずあったと思う。今になり、あれだけの広大な土地と、環境の良さと、道路整備によって支障なく新磐田市の真ん中に位置しているということで、先見の明があったかと思う。文化環境のゾーンとして30～40年先を見た広大な場所を設定できればいいと思う。

地域づくりの大切な核になる文化行政ですので、市街地の活性化ということも置き去りにする訳にはいかない。候補地の選定は難しいと思う。

(会長)

具体的な場所を示していただいた方が議論しやすいというご意見をいただきました。それと同時に、こういう観点は外せないということをすり合わせて絞っていくことになると思います。いかがでしょうか。

(委員)

多目的にするか、専門施設にするかという議論が残っていると言ったのは、昭和54年に建った時は思い切ったと思う。小ホールを作らずに、1500だけ作り、若干展示機能をつけたくらいの話です。今回、思い切ってやるかという議論の中でさっきのゾーンというのが生かせると思う。例えばそのゾーンの中で補完をするということで、単体で非常に高機能なものを作り、それとはまた別に展示施設という議論も出ています。

にぎわいづくり、まちづくりという観点で、もし別個につくれるものだとするならば、単体でホールを作っておき、にぎわいづくりに展示施設等をまた別につくるとか、まちの中につくるという考え方が出てくる気がする。施設のあり方、多目的にしてまとめてその中に入れていくのか、機能として分け、お金はかかるが別ものにしていくのか候補地を考えたときに議論が必要なのかと思う。

(委員)

一から全部土地を買っていくというのは、とても莫大な費用がかかる。提案ですが、磐田市では30年かけて市内全小中学校を一体校にしていきます。例えば広大な土地を持っている学校がそっくり空くというような場所があれば、その周りを買い占める手段もあると思う。

(委員)

磐田市は多目的で高度な機能を持ったホールを目指すことが一番ふさわしいのではな

いかなと思う。

本物を見るため、あるいは市民が日常の活動のために集まるなど、集まる行動が伝播し、連携されて、やっと劇場が拠点のまちのシンボルになる。施設を分けるより、ひとつの中でやった方が常ににぎわっているという感じが出ると思う。

ホールで舞台公演がないため人がいないという状態をつくってはいけないと思う。にぎわいを皆さんが求めるのであれば、ホールは公演を行っていないが展示はやっている。あるいは、展示も行っていないがロビーコンサートを行っている。

長久手の文化の家は、学生の勉強の場として、本物の芸術を公演しながら、いろいろな場所を安く、あるいは無料で勉強の場として開放した。通常文化会館は学生に開放しないところが多く、勉強している間にロビーコンサートやクラシックコンサートを聞く機会があり勉強も頑張った子もいる。

なにか耳にしたり触れたり、非常にこう忙しくしていたりということが、みんなで共有できる場所である必要がある。いろいろな機能が入っていてもいいかと思う。

(会長)

手元の参考資料に共通して言葉で出てくるのは、中核という言葉がずいぶん出てきます。シンボリックな建物であり、そこに多くの人々が集うというか、にぎわい創出機能なんていう言葉も共通しているような感じがします。

私の個人的な視点ですが、磐田市民文化会館は、磐田市民が利用するというのを第一義的に想定することになると思いますが、現在のこの文化会館に集っている方々というのは、一体どの辺のエリアの方々なのか、この会議の冒頭の話でありましたように、これだけの施設は、天竜川から掛川辺りまでありません。

磐田市、袋井市、周智郡も含めたこのエリアの方々が幅広く使っているという感じもします。

新たに建てる時、また場所も考えるときは、利用の実態を把握したり今後どのエリアの方々にご利用いただくかということも考えてみた方がいいかなと思いました。

(委員)

分離、のことを言っているのですが、文化ゾーンは必ずしも都市の中心にあるわけではないと思う。それは郊外にあるのかもしれない。郊外であっても車のアクセスは良い、というところがあるとすると、そこに単独でホールをつくり、そこにはゾーンですから、他に既存の施設があれば、そのゾーンとしてのにぎわいはある。これからの磐田市の財政を考えると公共施設を新たに何本もつくることは恐らくできない。

また、まちの中にコンパクトシティという都市計画の考え方もある。複合的に都市の中心に一つの施設としてつくる事でまちのにぎわいもはかっていくという両面作戦を考えるとまとめて全部一つのを郊外につくるばかりでもない。財政投資をする中であえて分けてやっていくということも考えてもいいのではないかと思う。

(委員)

多目的か専門ホールかという言葉が出ていましたが、これは多目的にならざるを得ない。専門ホールをつくってしまうと、音楽専門ホールなのか、演劇専門ホールなのか、もう少し大きくエンターテインメントのミュージカルであるとか、その手の興行のものを目的にするかにより、キャパそのものが変わってくるので、多目的にならざるを得ない。1500席の集会場としての役割も市民会館としては必要だ。舞台芸術、音楽芸術にかかわらない集会もできる。そういうことも考えた方がよい。

(委員)

多目的というのは、人が交流するとか、展示の施設もあるというふうに私は捉えてい

た。箱の中に交流のスペースもあれば、展示スペースもあってホールもある。ホールはホールにしておいて、例えば、展示施設、交流施設もまた別立てにまちのど真ん中に持ってくるという考え方もあるのかというふうに思っていた。

(委員)

なぎの木会館は音響効果が抜群なホールだということを売りにして建てられた。また、磐田は 1500 の客席と大きなステージを備えている誇りがある。合併したということで、市内のホールの特性のいいところを引き継ぎ、将来なぎの木会館がなくなっていく、ゆやホールがなくなっていく、福田のホールがなくなっていくということは方向性として決まっている。やはり多目的なステージを持つホールにならざるを得ない考える。

(委員)

言葉の解釈がみなさん違っているのではないと思う。次にホールの写真とかヴィジュアルで確認できるものがあるといいと思う。

例えば、資料の写真や、機能の残響時間でもいいが、その精度を確認できる資料を用意してホールと合わせてやっていかれた方が共有できる気がする。

多目的スペースに関する考え方や、専用といいますか、本物がやれる空間であるかどうかという考え方も違っているような気がした。

(委員)

私は、多目的という意味は、例えばコンサート、オペラ、ミュージカル、歌舞伎とか、その演劇なり、コンクールというようなものと、それから各種大会、例えば PTA だとか、市子連の全国大会などのそういうような各種大会、それから、市制何周年記念とか、成人式とか、戦没者の慰霊祭のような記念式典などいろいろなものができるというのが多目的ですよ。

(委員)

私の考える多目的は、聞いて、そういう考え方もあったと思いましたが、交流ゾーンがあって、展示施設があって、ホールがあるという一つの建物の中にいろいろな多目的な部分を全部包含しているのを多目的施設と捉えていた。

(委員)

多目的という意味には、オペラも、バレエもやれる、商業演劇も、音楽、コンサートもやれる、それから、演劇もやれるっていうような、今の市民会館です。

今の 1500 のキャパで、舞台は素晴らしいが、演劇やるには広すぎる。現代舞踊には大きすぎて向かない。しかし、向かないと言ってもらえないからやっている。

今のような形のものを、使い勝手の具合の悪いところがあってもなんとか使えるような工夫ができるのかどうか。どこかで客席を小さくするか。ただ、客席だけ小さくしても、音響設備その他がそれでうまく対応できるんだろうか、というようなことも含めてです。そういう意味の多目的です。

専門ホールといえば、静岡の SPAC が持っているようなホールは、演劇専用ホールですが、私どもでは使いが難しい。それから、なぎの木は音楽ホールとしてはいいですが、演劇ホールとして使いにくい。

そんなことも含めて、その多目的というのは、私は考えまして、それだけでも 3 人とも違っていました。多目的、専門ホールというもの、ゾーンという意味も違っていたのかもしれない。

(会長)

ありがとうございました。だいぶ共通理解が進んだと思います。

(委員)

何を優先させるかは市の考えもあると思う。

にぎわいとか、感動を共有するとか、常に人が集まる状況をつくり出すのであれば、舞台、客席のある空間と、その周辺施設、市民の集まる空間というのは、必須ではないか。都心では、専用ホールか多目的ホールか分けているところもあります。どちらかという、舞台も客席もあり、市民が集う場所があり、展示施設もいろいろと短期間に使える場所。常ににぎわっている場所というのが、磐田市では一番必要なのではないかと思う。

(委員)

磐田市文化会館は、ロビーだけの貸し出しを行っていないので、貸せないと言われて、何回か断られた経験があったのですが。

(事務局)

貸し出し規定の中では、ロビー単独の貸し出しはない。施策的に、最近行っているのは、本公演で舞台を使ったコンサートや演劇の開演前に、ロビーでちょっとしたコンサートを行っている。なぎの木会館でも、同じ団体がコンサート前にロビーでクラシック演奏を施策的にやった経緯は有る。一般貸し出しは規定がないということになる。

(会長)

先ほどの施設の写真についての提案は、また事務局の方でご検討いただきまして、必要なときに、永井さんの知見をお借りするというのでいきたいと思います。

(事務局)

次回以降、もし可能であれば、多目的という考え方も含めてヴィジュアル的な事例を用意しようかと思う。議論の中で確認しあえるツールになればと思う。

(会長)

皆さんより大変活発にご意見いただきましてありがとうございました。本日頂戴いたしましたご意見、お考えを事務局で整理をしていただき、次回の検討委員会で確認をしていきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

それでは進行を事務局にお返しいたします。

次回の日程を確認して会議終了